



# 旧南洋群島

## ゆたかな“もう一つの沖縄”

オセアニアの島々の一部は戦前、日本の統治下にあり「南洋群島」と呼ばれました。多くの県人が海を渡り、製糖を中心に発展しますが、日米の地上戦に多くの住民が巻き込まれ犠牲となりました。

### 旧南洋群島



- ストーンマネー**  
ミクロネシアのヤップ島で使われた石の加工物。通貨ではなく儀式的やりとりで使われる。ヤップ島には材料となる鍾乳石がなくパラオで制作し持ち込んだ。
- ナン・マドール遺跡**  
ミクロネシアのポンペイ島に13世紀ごろ造られた海上都市遺跡。浅瀬に巨石を積み上げて100以上の人工島を造り上げた。
- パンサイクリフ**  
サイパン島最北端の岬で太平洋戦争中に米軍に追い詰められた多数の日本人が80m下に身を投げた断崖。
- マジロ橋**  
マーシャル諸島唯一の橋。橋の上から環礁の内側と外側を一望できる。
- ダイビング**  
旧南洋群島にあたる海域は透明度が高く、サンゴやカラフルな魚を見ることができる。日本軍の沈没船を見ることができるダイビングスポットも。
- コウモリスープ**  
食用のオコウモリをココナツミルクで煮込んだパラオ名物のスープ。
- ミルクィウェイ**  
パラオのロックアイランドにある人気スポット。海底に石灰質の泥が沈殿しているため乳白色をしている。泥は肌に良く、自然の泥パックができる。
- 日本軍の戦車**  
旧南洋群島の島々には日本軍の施設や戦車などが、今でも残っている。

**旧南洋群島データ**

米自治領・北マリアナ連邦
サイパン島のスベ
マーシャル諸島共和国
マジロ
ミクロネシア連邦
ポンペイ州のパリキール
パラオ共和国
マルキョフ

### 美しい海が魅力の観光地

旧南洋群島は、太平洋西部の赤道以北の米自治領・北マリアナ連邦、マーシャル諸島共和国、ミクロネシア連邦、パラオ共和国に当たる地域で、600以上もの島々が散在しています。熱帯雨林気候に属した常夏の地域で、美しい海と豊かな自然に恵まれています。首長が強い権

限を持つなど島それぞれに伝統的な慣習が残り、人々の暮らしの中に息づいています。美しい自然が魅力の旧南洋群島は世界的なダイビングスポットとして知られ、観光業が盛んです。アメリカの支援に頼る地域も多く、経済的自立が課題となっています。



### 列強に翻弄され続ける

旧南洋群島には紀元前から人が暮らしていました。17世紀以降、マリアナ諸島、マーシャル諸島、カロリン諸島がスペイン領となります。1898年、ドイツが同地域を獲得します。第1次世界大戦で連合国の一員として参戦した日本が、赤道以北のドイツ領ニューギニアを占領。1922年に委任統治を託されました。日本はパラオのロール島に南洋庁を置き、6つの行政区を設置して開拓を進めます。21年に設立された国策会社・南洋興発を中心に製糖業が発展。南洋興発はサトウキビ栽培に慣れていた沖縄県人を積極的に招き入れました。22年に3310人だった日本人は、43年には10万人近く

に達し、現地住民を上回りました。そのうち6割以上を沖縄県人が占めました。南洋群島には「チャモロ」「カナカ」と呼ばれる先住民が住んでおり、南洋庁は彼らに対して同化政策を採り、皇民化教育を進めました。41年の日本軍による真珠湾攻撃後、旧南洋群島も軍事色が濃くなっていきます。44年2月、米軍は南洋の島々を空襲、6月にサイパン、7月にテニアンに上陸。日本軍との間で激しい戦闘となり、県人を含む多くの住民が巻き込まれ命を落としました。旧南洋群島全体で軍人・民間人、海没者を含め24万6千人が犠牲となりました。太平洋戦争終結後、旧南洋群島はアメリカ合



大正期、サイパン島の南洋興発の製糖工場にサトウキビを搬入する様子 出典：国立国会図書館デジタルコレクション（インターネット公開『南洋群島写真帖』南洋協会南洋群島支部編 南洋協会南洋群島支部出版 1925年）

衆国の信託統治に委ねられます。その後、ミクロネシア連邦、マーシャル共和国が独立。北マリアナ連邦がアメリカ自治領となり、94年にパラオ共和国が独立し、信託統治が終了しました。

### 県人の歩み

## 日米の激戦で多くの犠牲

1920年代、沖縄県はソテツ地獄と呼ばれる大不況で県民は苦しい生活を強いられました。日米関係の悪化で北米や中南米への移民が難しくなる中、旧南洋群島に設立された南洋興発が、サトウキビ栽培に慣れた沖縄県民の積極的な採用を進めます。県民にとっても、旧南洋群島は日本の委任統治領でパスポートも必要なく、衣食住も楽、そしてもうかるということで、こぞって海を渡りました。県民の多くは南洋興発所有のサトウキビ畑で働きました。本部・名護・糸満などからカツオ漁の漁船団を組んだウミンチュがパラオに出漁し、沿岸に住み着きました。学校の児童生徒も半数以上が県人の子弟。41年には県系人は5万3206人にもなりました。旧南洋群島に「もう一つの沖縄」が生まれたような状況でした。南洋の島々にも戦争が近づいてきます。42年

のミッドウェー海戦敗退後、日本軍は日本人の女性や子ども、高齢者を日本に引き揚げさせます。その途中で米軍に撃沈された船もあり、犠牲者は1700人に上りました。44年2月、米軍によるサイパン、テニアンへの空襲を皮切りに、日米の戦闘が始まります。米軍はサイパンやテニアンなど南洋の島々に上



艦砲射撃と空爆を受けたテニアンの町 =1944年（沖縄県公文書館所蔵）



サイパンのおきなわの塔で開かれた第48回全南洋群島沖縄県人戦没者慰霊祭で祈りをささげる帰還者ら =2017年5月（国際旅行社提供）

陸し、多くの民間人が戦場を逃げ惑いました。日本兵による住民の壕追い出し、手りゅう弾や投身による「強制集団死」（集団自決）も相次ぎました。旧南洋群島での県系人の犠牲は1万2826人に上りました。46年、米軍は旧南洋群島にいた日本人全員の引き揚げを命じます。3万3千人もの県系人が着の身着のままに沖繩に引き揚げました。48年、旧南洋群島から引き揚げた人々が集まって「南洋群島帰還者会」を設立します。設立当初は再移民が目的でしたが、次第に戦没者の慰霊と現地住民との交流が活動の中心となっていきました。2019年、会として最後の墓参を行いました。

### ステキな先輩!

## 南洋の歴史つなぎたい 帰還者会理事 比嘉 俊雄さん(53)

南洋群島帰還者会最年少理事の比嘉俊雄さん(53) =豊見城市=の曾祖父は戦前、サイパンに渡りました。「親族の9割が南洋に行った」という比嘉さん。自らのルーツをたどるため帰還者会に関わり、同じようにルーツを求める人々の手助けをしています。比嘉さんの父・和雄さんは1歳で祖母とサイパンから沖繩に引き

揚げました。徴兵された祖父は戦死。和雄さんから南洋の話聞くことはなかったといいます。そんな比嘉さんが帰還者会の存在を知ったのは15年前。「仏壇の7つの位牌のうち6人が南洋で亡くなっている。彼らがどのように生きたのかを具体的に知りたかった」と振り返ります。帰還者の話や資料から曾祖父がサイパンで

「笑福楼」という料亭を営んでいたこと、戦死した祖父のこと、曾祖父の兄弟がテニアンで農業を営んでいたことが分かりました。2017年から3年間、旧南洋群島の慰霊碑を巡る戦没者慰霊祭に参加。慰霊祭の運営に携わる傍ら、曾祖父の料亭があった場所を確認

することができました。現地に沖縄県人会がなく、帰還者の高齢化が進む中、旧南洋群島の歴史が埋もれることに強い危機感を抱いています。「対馬丸記念館のように『ここに来たら南洋群島のことが分かる』という場所をつくりたい」と力を込めました。



第50回南洋群島慰霊祭で遺族代表あいさつをする比嘉俊雄さん =2019年8月27日、米自治州のサイパン

## 現地語となった日本語

南洋庁設置以降、旧南洋群島には日本と同様に小学校が設置されました。1941年には日本本土と同様、国民学校となります。群島内に全34校ありました。さらに上級の進学先として、群島内の中学校や高等女学校、サイパン実業学校、南洋興発付属専習学校などがありました。現地住民の子弟向けに本科3年、補習科2年の公学校が設けられ、皇民化教育が進められました。現地住民にも日本語教育を徹底したため、旧南洋群島には今でも日本語由来の言葉が多く残

っており、パラオ共和国のアンガウル州では日本語も公用語として定められています。パラオ語の2割が日本語由来とされ、「ダイジョーブ」、「ゴメン」、「メンドクサイ」、「オカネ」（お金）、「センキョ」（選挙）など、日本語の意味そのままの言葉もあれば、「アジダイジョーブ」（おいしい）、「アイコデショ」（じゃんけん）、「ツカレナオース」（「お疲れさま」が転じてビールを飲むこと、乾杯）など少し変わった使われ方をしているものもあります。



取材協力・国際旅行社 監修・沖縄県立図書館 紙面制作・熊谷樹、上原明子 (毎月第1週掲載)